

「令和6年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立 富里南小学校】

令和6年4月18日（木）に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の結果についてお知らせします。

1 児童が受けた調査について

「国語」、「算数」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

教科に関する調査

- (1) ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※出題範囲：原則として調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>

2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

(1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率 (以下全国平均) との比較)

国 語	学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題	C
算 数	学習指導要領における、「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容からバランスよく出題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

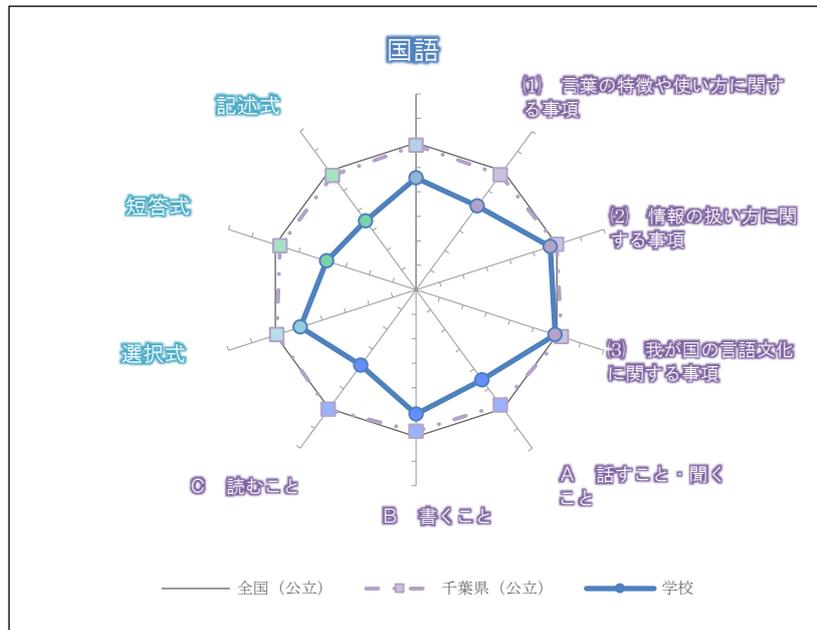
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

(2) 教科ごとの分析

国語



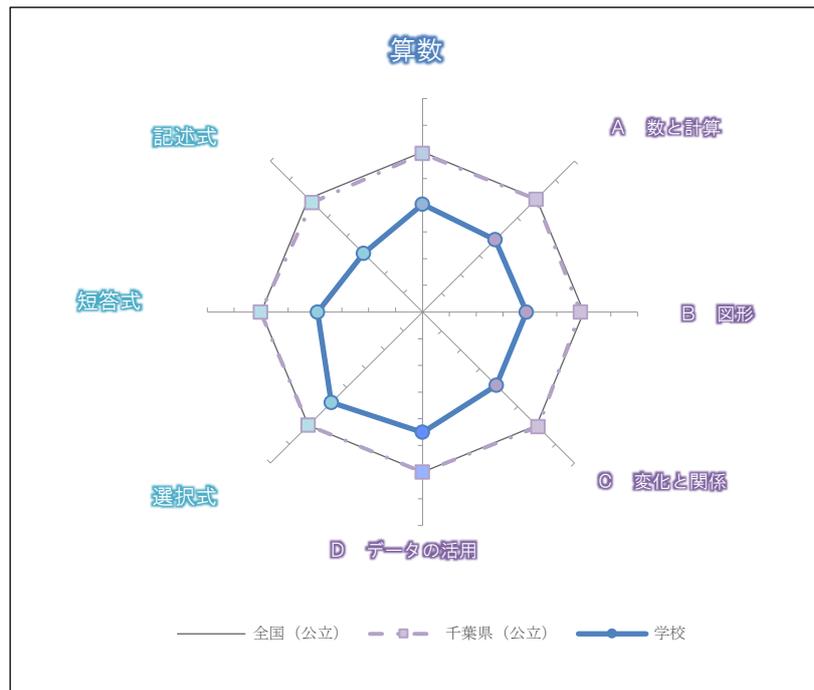
【特徴と現状】

- 「言葉の特徴や使い方」に関する問題の正答率が低かったです。ここでは、漢字を正しく書くこと、文章の中で主語と述語の関係を捉えること、話し言葉と書き言葉との違いを選択することの問題が出題されました。
- 「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」のどの領域も、全国平均を下回っています。
- 「書くこと」については、「取材メモをもとに、自分の考えが伝わるように60字以上100字以内にまとめて書く」問題の正答率が低かったです。また、無回答率も1/4程度います。これは、文章を書くことに慣れていないことや、自分の考えをまとめて書くことに課題があると考えられます。
- 「読むこと」については、物語の人物像を想像する問題で、正答率が低くなっています。これは、物語に触れる機会が少なかったり、想像を膨らませて読んだりすることに課題があると考えられます。

【改善方策等】

- これからも引き続き、ドリル学習や小テストなどを通して、漢字の読み書きが確実に定着する様にしていきます。
- 「書くこと」については、視写を行ったり、要点を簡単にまとめる文を書いたり、日記や自分の思いを書いたりする活動を積み重ねていき、書くことに慣れるようにしていきます。
- 「読むこと」については、これからも引き続き音読を行ったり、読書の時間を確保したりし、物語に触れる機会を意識的に増やしていきます。また、登場人物の気持ちを読み取る学習をくり返し行っていきます。
- 毎日の家庭学習で、漢字練習や音読、読書、日記等を継続して行うよう、児童に指導しています。御家庭でも、御支援をお願いします。

算 数



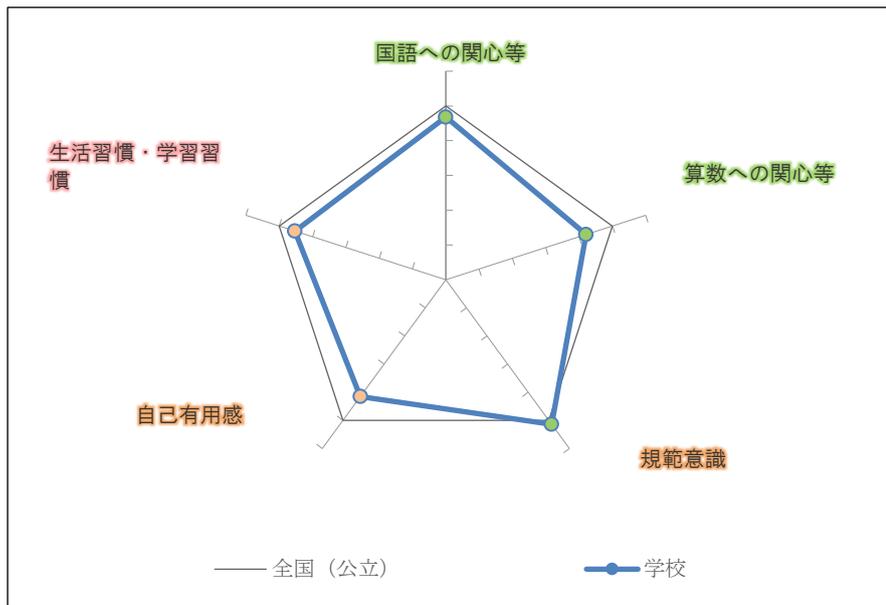
【特徴と現状】

- 「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」のどの領域も、全国平均を下回っています。
- 小数の割り算を苦手とする児童が多く、正答率が低くなっています。整数で割ることができていても、小数で割る時の小数点の処理の仕方を間違え、正答できなかった児童が多くいました。また、小数で割るとはどのようなことなのか、その意味を理解できてないと考えられます。
- 図形領域を苦手とする児童も多かったです。立体の体積を求め方や、円の直径と円周の関係、角柱の性質をしっかりと理解していないと考えられます。
- データの活用については、必要な数値を読み取り、式に表し計算することができていても、答え方が分からず、正答に結びつかなかったと考えられます。

【改善方策等】

- これからも引き続き、ドリル学習や100マス計算、四則計算などを通して、基礎基本となる計算力が身に付くように努めていきます。
- 児童同士で考えを交流し、深め合う活動を積極的に取り入れ、公式や解き方を覚えるだけでなく、「なぜそうなるのか」といった思考の過程も大切にしていきます。
- 毎日の家庭学習で、ドリルやプリント学習を継続して行うよう、児童に指導しています、御家庭でも御支援お願いします。

(3) 児童に対する質問紙調査の結果及び分析



【特徴と現状】

- 携帯電話やタブレットで SNS や動画視聴する時間について、約 25% の児童が平日であっても 3 時間以上であると解答しています。また、テレビゲーム (コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やタブレットを使ったゲームも含む) を行う時間については、約 35% の児童が平日であっても 3 時間以上であると解答しています。
- 家庭での学習時間については、平日は約 45% の児童が 1 時間未満、休日についても約 55% の児童が 1 時間未満と解答しています。全国平均では、1～2 時間家庭で学習に取り組んでいる割合が多いです。
- 自己有用感が低く、「自分には、良いところがあると思いますか。」については、約 20% の児童が否定的な解答をしています。「友達関係に満足していますか。」の質問にも、約 20% の児童が否定的な解答をしています。
- 「困りごとがあった時に相談できる大人がいますか。」の質問には、約 47% の児童が否定的な解答をしていることから、職員一同、児童一人一人に寄り添い、思いを受け止めていくように努めています。

3 まとめ

学校においては、これからも引き続き、基礎的・基本的な学力が定着するように努めていきます。また、自分の考えを文章に書いたり、友達に自分の考えを伝えたりする活動を通して、思考力・判断力・表現力が向上するように授業を充実させていきます。授業はもちろん、学校生活全般において、友達同士が互いに認め合う雰囲気を作れるように努め、自己有用感を高められるようにしていきます。

家庭での生活習慣や学習習慣は学力に関連があるという調査結果があります。御家庭では、家庭学習の習慣や「早寝・早起き・朝ご飯」などの規則正しい生活習慣が身に付けられるように、引き続き御支援、御協力をお願いします。